

Track 10.

夕日に

合図のベルでも鳴ったかのように あちらこちらから飛び出して来て
みんなせわしく通り過ぎていくけれど 朝とはちょっと違って笑顔もこぼれ

そんななかでも時にひどく疲れた様子で ため息をついている人もいる
何か良くないことでもあったのか 足取りもどこか重たそうで

今日も一日終えて帰る家でも いいことばかりとは限らないしね

今の僕にはなんにも確かなものなどないから * 繰り返し
ただ街行く人を眺め口ずさむのさ
過ぎ去った時の遠い思いを この街を染める夕日にはせて
必ず来るはずの夜明けを夢に しばしここで目を閉じよう

誰もが家路を急ぐ 道筋に立ち止まれば 細い路地裏に隠れた台所から
カレーや魚を焼くにおい そして子供たちを呼ぶ母の声
取り立てて何も言うこともない いつもの日々がただ流れてゆくだけ
それがどれほど素晴らしいものなのか 失ってしまうまでは分からないもんさ

この坂の街からよく晴れた日には 富士山だって見えるんだよ

* 繰り返し

起こってしまったことは すべてすっかり 忘れてしまいたいとも 思うけど
それで生きる道を見つけたとしても もうここまで来たら 遅すぎるしね

美しい未来は望めないけど 君と過ごした記憶は残ってるから

* 繰り返し